大淀中学校だより　『生』

祝　卒業

第　１５ 号
京都市立大淀中学校
令和４年　３月１５日
文責　油谷

校長式辞

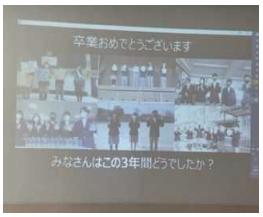
（前号からの続き）
大淀中学校の教職員を代表して、私は今、皆さんに心から「ありがとう」と感謝したいと思います。
さて、今日の卒業に当たり、私は、２つの話を皆さんに贈りたいと思います。
１つ目は「人生に無駄なことはない」ということです。
これからの人生の中で、皆さんは大きな痛手を受けることもあるでしょう。
時には信じていた人に裏切られたり、思わぬ事故やハプニングで、
心の傷が癒えない苦しみを味わうこともあるかもしれません。
時には自信を失い、孤独を感じてしまうこともあるでしょう。
そんなピンチの時に最も大切なことは、何だと思いますか？
それは自分自身の考え方です。その苦しみの中からどう立ち上がるか？
これこそがその人の人生の価値を作っていくのだと私は思います。
この苦しみをどうとらえ、どう乗り越えていくのか？答えは誰も教えてくれません。
自分で探すしかないのです。心のコップを上向きにして、人生をゆっくりで良いから一歩ずつ一歩ずつ進んで欲しいと願っています。すると必ず、苦しかったこともいつかきっと、皆さんの人生にとっての肥やしになるのです。そういう私にも本当に苦しいときがありました。そんな中、奈良県にある東大寺の大仏さんを観に行ったときのことです。大仏さんの表情をみていると、自分の苦しみすべてを受け止めてくれるような気持ちになりました。と同時に、ここに答えはなく、その答えはいつも自分の中にあるんだなと思いました。だから自分の考え方次第で、苦しみも決して無駄にはならないのだと。いつかそれは必ず人生の引き出しの中で生きてくることがあるんだと。
２つ目は「仏様の指」という話をしたいと思います。
「仏様があるとき、道ばたに立っていらっしゃると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ車を引いて通りかかった。そこは大変なぬかるみであった。車は、そのぬかるみにはまってしまって、男は懸命に引くけれど、車は動こうともしない。その時、仏様は、しばらく男の様子を見ていらっしゃいましたが、ちょっと指でその車にお触れになった。その瞬間、車はするっとぬかるみから抜けて、からからと男は引いていってしまった。」
困っている君、頑張ろうとしている君を「仏様の指」になり、皆さんの背中にそっと触れてくれたのは、誰だったのでしょうか。つい先日完成し、上映された学年製作映画「今、君を～」これは学年主任の堀内先生が脚本され、震災や戦争の恐ろしさ、残酷さ、そして平和の大切さを知るために皆さんが３年間で学んだすべてをこの映画のひとつひとつの台詞に込めてできあがりました。学年全員で取り組んだ、まさに伝説に残る作品となりました。私達はこれからの人生において、命を大切に、そして日々の中で、他人の気持ちも大切にしていくことを学んだと思います。この温かい関係にあるように、まさに生徒と先生の距離が近く、そして、いっぱいの「仏様の指」があった学年だったのではないでしょうか。
校長として、その「仏様の指」になった全ての教職員に言葉に言い表せないほど、感謝をしています。
保護者の皆様に、高いところからではありますが、ひとこと、お祝いを申し上げます。
本日は、お子さまのご卒業、誠に、おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。
ここまで育ててこられた十五年間は、一言では言い尽くせないご苦労があったと思います。
今日のこのご卒業の感激は、感慨無量のことと思います。
しかし、そんなご苦労があって、こんなにも素晴らしく心温かい子どもに成長してくれたのだと思います。
本校では昨年度から「明朗・公正で卑屈でなく、やり出したら最後までやり抜く」という大淀スピリットを掲げ、学校教育目標を「自主・自律の態度と共生の心を育てる」として、教職員ひとつになって取り組んできましたが、生徒達にどれだけ力がつけられただろうか自問自答しております。
時には、我々の力不足により、そのお気持ちを汲むことができないこともあったかもしれません。
本日、義務教育を終了したとはいえ、これからが本当の勉強であると思います。
どうか、一層の愛情を持って、心豊かに成長されますようご指導をお願いいたします。
ま た 、ご来賓の皆様方におかれましては、公私ともご多用のところ、ご臨席賜り、花を添えてくださいましたこと、高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。
今巣立つ卒業生、そして在校生ともに末永くご指導いただきますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、私は大淀中学校の校長として、皆さんを本当に誇りに思います。
この３年間大淀中学校で一緒に生活ができたことをとても幸せに思っています。
本当にありがとう！
結びに、私がどうしようもなく辛いときによく聴き、元気をもらう歌手の長渕剛さんの
「HOLD　YOUR　LAST　CHANCE」という曲の詩を読み、
皆さんが自分らしく生きていってくれることを願い、私の式辞と致します。

傷つき打ちのめされても　這い上がる力が欲しい
人は皆　弱虫を背負って生きている
苦い涙をかじっても　微笑む優しさが欲しい
君が愛にしがみつくより　まずは君が強くなれ
ＨＯＬＤ　ＹＯＵＲ　ＬＡＳＴ　ＣＨＡＮＣＥ　小手先ではがれ落ちる美しさより
ＨＯＬＤ　ＹＯＵＲ　ＬＡＳＴ　ＣＨＡＮＣＥ　一粒の汗の方が良い
二度と走れぬ坂道を登ったら　ＨＯＬＤ　ＹＯＵＲ　ＬＡＳＴ　ＣＨＡＮＣＥ
誰かが道でつまづいたら　さしのべる思いやりが欲しい
人は皆　寂しさを背負って生きている
頬を突き刺す怖さがあっても　立ち向かう勇気が欲しい
曲がりくねった迷路で　本当の自分を探すんだ
ＨＯＬＤ　ＹＯＵＲ　ＬＡＳＴ　ＣＨＡＮＣＥ　テーブルに飾られた薔薇より
ＨＯＬＤ　ＹＯＵＲ　ＬＡＳＴ　ＣＨＡＮＣＥ　野に咲く蓮華草の方が良い
二度と走れぬ坂道を登ったら　ＨＯＬＤ　ＹＯＵＲ　ＬＡＳＴ　ＣＨＡＮＣＥ

令和４年３月１５日
京都市立大淀中学校
校 長　油谷　昇

３年生を送る会（３／１１）



本日オンラインで「３年生を送る会」を開催しました。
昨年度に引き続き、事前に各学年で企画し、撮影したビデオ視聴を中心に構成されていましたが、何と言ってもその中身がすごかったです。ビデオの逆再生を利用した数々のメッセージボード、各教室やグラウンドなど思い出の学舎を網羅し、３年間の思い出が振り返られるように上手に編集されていました。
このクオリティーの高さに感服しました。そして３年生からは「今、君を・・」というオリジナル脚本の人権映画を披露してくれました。
仲間に対し、心ない言葉を言ってしまった主人公が日々のいらだちから母親に向かってもつい甘えて放った言葉。その矢先に母を亡くす夢を見る。さらに先ほどの仲間が東日本震災で家族を亡くしたことを初めて知り、人の命の大切さを感じ、言葉の重みを知るというストーリーでした。

約半年に渡る撮影、そして上映された日がまさに東日本大震災の日という巡り合わせもありました。 全学年の心のこもった映像をを見て、心の中がキュンとなる感動、本当に思い出に残る素晴らしい３年生を送る会となったと思います。これまで生徒会本部の皆さんが中心になり、そして各学年がそれぞれ心ひとつに仕上げてくれたことで、また一段と大淀中学校が成長できた日になったのではないでしょうか。 ３年生の皆さんがこの大淀中学校で過ごしてくれたこと。ここにいてくれたこと。 存在していてくれたこと。このこと自体が本当に素晴らしいことだと思います。 後輩たちはその後ろ姿を刻み、これからその伝統を受け継いで、より良きものにしていってくれると信じています。 全校生徒の皆さん、本当にありがとう！

美術部員の皆さんがトイレのすのこを製作してくれました。

美術部員の皆さんが昨年からコツコツと西校舎のトイレのすのこを製作してくれました。３年生と一緒にイラストも含めて製作に当たってくれましたが、新型コロナによる部活動の停止も重なり、最終的に光沢を出す作業は１２年生がバトンを受け継ぐ形になりました。
新年度から西校舎のトイレに置くことになります。とても可愛くて、ステキなすのこです。楽しみです。